



琵琶湖とその水辺景観

素材研究
(国内)



琵琶湖や河口では今でも伝統的な漁法が行われています



民家でカバタ(川端)と呼ばれる水の循環システムも利用されています



近江八幡では昔ながらの水郷めぐりを楽しめます



延暦寺の支院・伊崎寺では「禱飛び」行事が1000年近くも続いています



米原市周辺では1300年前から雨乞いの太湖踊りが伝承されています

美しい風景を生み出す「水」は独自の文化・伝統も育んできました

「水の文化」を前面にアピール 地元主体の観光まちづくりにも期待

近江盆地の中央に位置する琵琶湖を持つ滋賀県は、県内各地で「水の文化」が育まれ、現在まで継承されてきました。「琵琶湖とその水辺景観」が日本遺産に認定された同県では、「水の文化」を前面に打ち出した新たな観光振興策が進められています。

10月から半年間にわたりキャンペーン

滋賀県では今年10月から来年3月までの6カ月間にわたって、観光キャンペーン「日本遺産 滋賀びわ湖水の文化ぐるっと博」が実施されます。これは、2018年度に予定されている大型観光キャンペーンのプレイベントとして位置づけられており、日本遺産を構成する自治体だけにとどまらず、県内すべての市町で「まちあるき」プログラムや着地型ツアーといったコミュニティツーリズム事業の展開も計画されるなど、全県が一丸となって取り組むものです。

公益社団法人びわこデジタルズビューローは、「県内各地域をめぐるキャンペーンを通じて地元が主体となる観光まちづくりの取り組みにつなげていきたい」（国内誘客部）と説明。「実際に日本遺産を訪れたただく旅行商品の造成を促すため、旅行会社などへのプロモーションも強化していく」方針を示しています。

2015年に日本遺産に認定された「琵琶湖とその水辺景観」祈りと暮らしの水遺産は昨年も、水と暮らしに関わる資産として石山寺、彦根城、菅浦の湖岸集落景観、水と祈りに関わる資産として西教寺と竹生島が追加認定されており、日本遺産に基づくストーリーが更に充実する形となりました。

コミュニティツーリズムのプログラム開発

彦根城や延暦寺に象徴される城郭や寺社、湖北エリアの仏像群など、歴史的な観光スポットの多いことで知られる滋賀県ですが、琵琶湖とその水辺空間が「祈りと暮らしの水遺産」として日本遺産に認定されたのを受けて、地域の人々の信仰や生活、食文化などにもスポットを当てながら、着地型・体験型を中心とするコミュニティツーリズムのプログラム開発が進められることとなります。日本遺産を軸に「水と暮らしの文化」「水と祈りの文化」「水と食の文化」をテーマにした深掘りも期待されています。

びわこデジタルズビューローによると、大津市・彦根市・近江八幡市・高島市・東近江市・米原市・長浜市の7市にわたる日本遺産の構成文化財は26件を数えており、同ビューローでは「構成文化財を活用した地域による取り組みを通じて、住んでいる地元の方々の自覚や誇りを高めていく契機にしたい」考えです。